

『クイーン』 原題 The Queen (2007)



映画批評

『クイーン』 原題: The Queen (2007)

～凛々しく受け入れるエリザベス女王 II 世の姿を描く

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

©m.tsukada

『クイーン』は、1997年8月31日にダイアナ元皇太子妃が自動車事故で急逝して、当時のロイヤル・ファミリーの混乱ぶりと、これに対処する新首相に当選したばかりの若きブレアの見事な手腕、そして、英国女王エリザベス II 世の胸中の苦悩と人間性を描いた秀作である。



↑ 何事にも私情を抑え国民にたいする女王の義務と責任を果たし気品あふれるエリザベス女王 II 世の役を演じきるヘレン・ミレン

1997年、英国総選挙で労働党が勝利して、トニー・ブレアが首相に就任した時、憲法と伝統の大改革を主張してきたブレアとエリザベス二世女王の間には不穏な溝があった。女王は元ダイアナ皇太子妃の自動車事故死を無視し、ブレア首相は「国民のプリンセス」の声明を出して国民の心をつかんだ。国民と王室の関係改善に奔走するブレアは女王のメッセージを執拗に請う。しかしエリザベス二世女王は王政と個人としての人間存在の狭間で苦渋するが、それを隠して冷静沈着で威厳ある貫禄を堅持して臨んでいた。

映画中盤に、鹿狩りの場所に急ぐ途中でふいに牡鹿に出くわして立ちすくむ女王が、森の静寂を破る狩笛をきいて、「お逃げ」と口走るシーンがあるが、これは女王の日常的な無垢な姿である。ヘレン・ミレンは女王の威厳さとなにげなさの両面をじつに印象的に演じている。さすがにアカデミー主演女優賞の受賞女優である。

映画のセリフ

◆ トニー・ブレア首相がエリザベス二世女王に電話で進言する

HM Queen Elizabeth II: Prime Minister.

Tony Blair: Good morning, Majesty. Sorry to disturb, but I was just wondering whether you'd seen any of today's papers?

HM Queen Elizabeth II: We've managed to look at one or two, yes.

Tony Blair: In which case my... next question would be whether you felt some kind of response [Queen Elizabeth puts Blair on speakerphone]

Tony Blair: might be necessary?

HM Queen Elizabeth II: No. I believe a few over-eager editors are doing their best to sell newspapers, it would be a mistake to dance to their tune.

Tony Blair: Under normal circumstances I would agree. But... well, my advisors... have been taking the temperature among people on the streets... and, well, the information I'm getting is that the mood is quite delicate.

HM Queen Elizabeth II: So, what would you suggest, Prime Minister, some kind of a statement?

Tony Blair: No, ma'am. I believe the moment for statements has passed. I would suggest flying the flag at half-mast above Buckingham Palace... and... coming down to London at the earliest opportunity. It would be a great comfort to your people... and would help them with their grief.

HM Queen Elizabeth II: [Picks up the receiver] THEIR grief? If you imagine I'm going to drop everything and come down to London before I attend to my grandchildren who've just lost their mother... then you're mistaken. I doubt there is anyone who knows the British people more than I do, Mr. Blair, nor who has greater faith in their wisdom and judgments. And it is my belief

that they will any moment reject this... this "mood", which is being stirred up by the press, in favor of a period of restrained grief, and sober, private mourning. That's the way we do things in this country, quietly, with dignity. That's what the rest of the world has always admired us for.

Tony Blair: If that's your decision, ma'am, of course the government will support it. Let's keep in touch.

HM Queen Elizabeth II: [Curtly] Yes. Let's. [Slams down the phone]

日本語訳

エリザベスⅡ世女王:ブレア首相。

ブレア首相:おはようございます、陛下。お騒がせして申し訳ございませんが、あの、朝刊を何かご覧でいらっしゃいますでしょうか？

エリザベスⅡ世女王:ええ、1紙か2紙は、どうにか目を通しましたよ。

ブレア首相:それでは、その、次にお聞きしたいのですが、何か対応策でも…

[エリザベス女王はブレア首相からの電話をスピーカーホーンに切り替える]

ブレア首相:お考えかどうかと…？

エリザベスⅡ世女王:いいえ。過熱気味の編集長が売り上げを伸ばそうとしてバカ騒ぎしているだけのことです。彼らの手に乗せられる方はありません。

ブレア首相:通常の事態でしたら、私もそう思います。しかしながら、あの、私の顧問らは街の市民のナマの反応をうかがっていましたが、その、私に伝わってきている情報というのが、つまり、かなり微妙な空気を孕んでおりまして。

エリザベスⅡ世女王:で、どうしろと言うのですか、ブレア首相？ 何か声明でも？

ブレア首相:いいえ、陛下。声明を発表するタイミングは逸したと思います。それよりバッキンガム宮殿に半旗を掲げてはいかがでしょう…。そしてできるだけ早い機会にロンドンにお帰りになられては…。きっと国民の慰めになるでしょうし、哀しみも報われる事でしょう。

エリザベスⅡ世女王: [受話器を取る] 国民の哀しみですって？ 何もかも中途半端に投げやって、母親を亡くしたばかりの私の孫たちを見舞ってやることもしないで、すぐにロンドンへ帰れなどという事を、もしも考えていらっしゃるなら、あなた、それはまちがっていますよ。英国の民の事を誰よりよく知っているのは、私をおいて他におりますまい。ブレア首相、さらに言うなら英国国民の知性と分別を誰より信頼しているのは私の他におりません。英国国民はどのような時であろうと、現在の、このような「空気」を嫌うものと私は信じています。これはマスコミが煽っているのです。国民が支持しているのは、哀しみを内に秘め、荒立てずに私事として喪に服すること。それがこの国の流儀… 静かにそして威厳をもって行うことです。それこそ世界中の人々がいつも我々に対して敬意の眼差しで見ているものです。

ブレア首相:それが陛下のご決心であるなら、当政府はもちろん支持いたします。協調路線で参りましょう。

エリザベスⅡ世女王: [素っ気無く] ええ、そのように。 [ガチャンと電話を切る]

◆ブレア首相が女王を支える段取りをする

Alastair Campbell: They, er, sent a copy of the Queen's speech. Might want to scrape the frost off it first... Oh, I phoned them with a couple of suggestions, to make it sound like it came from a human being.

Tony Blair: Yeah, all right, Alastair.

Alastair Campbell: Well, at least the old bat's finally agreed to visit Diana's coffin. Tony Blair: You know, when you get it wrong, you really get it wrong! That woman has given her whole life in service to her people. Fifty years doing a job SHE never wanted

A job she watched kill her father. She's executed it with honor, dignity, and, as far as I can tell, without a single blemish, and now we're all baying for her blood! All because she's struggling to lead the world in mourning for someone who... who threw everything she offered back in her face. And who, for the last few years, seemed committed 24/7 to destroying everything she holds most dear

日本語訳

キャンベル: 女王のスピーチ原稿のコピーが出された。まず冷たさから取り除こうというつもりだろう...電話でいくつか進言したよ、生身の人間の口から出た言葉らしくしろって。

ブレア: ああ、わかった、アラステア。

キャンベル: それでだな、おばさまはようやくダイアナの棺を弔問するところまでは納得したよ。

ブレア: 言うておくがね、一つ間違えたが最後、とことん間違えるってこと! あの人は 一生を国民への奉仕に捧げているんだぞ。自ら望んでもいなかった仕事を 50年間もやり続けてきたんだ。父親が死に追いやられるのを間近に見ていた仕事をだ。それを誇りと威厳と、それに私の知る限り一点の汚点も残さずに遂行してきた。そのあげくが今いっせいに血祭りに上げられている! それというのも後ろ足で顔に砂をかけるように、ことごとく捨て去ったひとの喪に際して、世間の舵取りに手を焼いているだけのことだよ。ついでに言うとな、そのひとというのはここ数年、自分が一番大切にしてきたものを四六時中ぶち壊すことばかりやっつてのけたひとなのさ!

◆エリザベス II 世女王とブレア首相の協調し合うコミュニケーション

HM Queen Elizabeth II: So tell me, Mr. Blair, what might we expect from your first parliament?

Tony Blair: Well, ma'am, top of the list is education reform. We want to radically reduce classroom sizes.

HM Queen Elizabeth II: Oh, yes. Yes, we must.

Tony Blair: Create a much lower teacher-pupil ratio.

HM Queen Elizabeth II: Yes, it will be difficult to achieve...

[trailing off, inaudible]

日本語訳

エリザベス二世女王: それで、ブレア首相、あなたの最初の議会では何が重点に置かれるのですか?

ブレア首相: はい、陛下。なによりまず教育改革です。1クラスの人数の縮小について抜本的に取り組みます。

エリザベス二世女王: そうですね、ええ、そうですとも。ぜひそうしないと。

ブレア首相: 教師対生徒の比率をもっと下げる制度を作ります。

エリザベス二世女王: ええ、なかなかむずかしいでしょうけれど、、、〔声が次第に小さくなり、やがて消える〕

(セリフ翻訳: 吉井/塚田)



↑ ブレア首相の進言をうけ、女王夫妻ははじめてバッキンガム宮殿の外に出て、元ダイアナ妃に捧げられた花束に見入る

【映画史リテラシー】

ヘレン・ミレンが2007年(第79回)アカデミー主演女優賞を受賞し、さらに英国アカデミー賞作品賞及び主演女優賞を受賞、他にも多数の賞を受賞した。2007年ゴールデングローブ脚本賞を受賞した映画作品。

[映画情報]

配給: エイベックス・エンタテインメント(株)

© 2006 GRANADA SCREEN LTD/PATHE RENN PRODUCTION SAS/BIM
DISTRIBUZIONE

4 月 GW よりシヤンテシネほかにて全国ロードショー

Genre: Drama MPAА Rating: PG-13

© 2007 m.tsukada. All Rights Reserved.